

ネットワークアンケート ⑤1

糖尿病ネットワークを通して

医療スタッフに聞きました

Q. 糖尿病患者さんのうち、処方薬の名前・用法をすべて覚えているのは、何割ぐらいだと思いますか？

以前行ったアンケートと同じテーマを再度取り上げる企画の第三弾。今回は服薬アドヒアランスについて。前回このテーマで調査したのは2005年のことでした。それから12年、どのような変化があったのでしょうか？

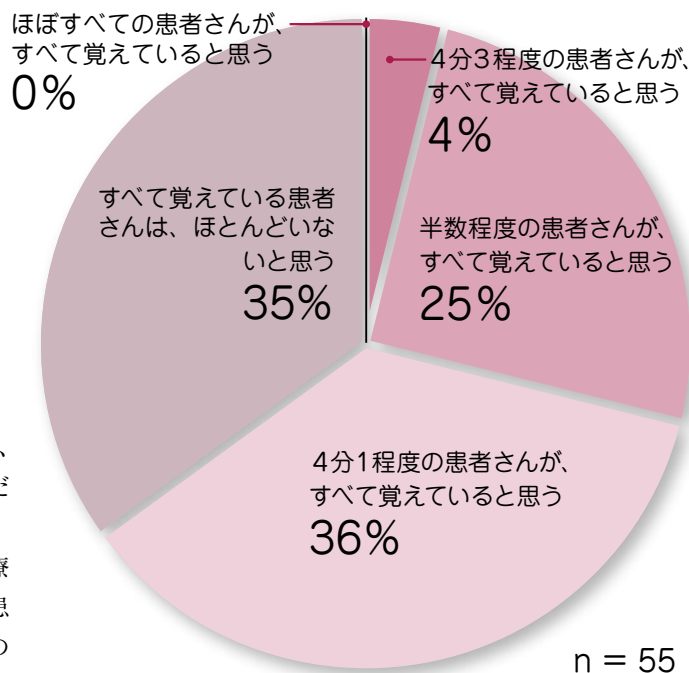
[回答数：医療スタッフ55（医師15、薬剤師12、看護師23、管理栄養士4、その他1。うち糖尿病療養指導士19、糖尿病認定看護師3）、患者さん266（1型56、2型196、その他14。経口薬療法75%、インスリン療法45%、GLP-1受容体作動薬療法5%）。重複あり]

「ほぼすべての糖尿病患者さんが、処方薬の名前や用法を全部覚えている」と考えている医療スタッフは皆無で、「全部覚えているのは4分の1程度」または「ほとんどいない」と考えているスタッフが7割以上を占めました。すべての処方薬の名前と用法を患者さんが記憶するのは無理と、あきらめムードが漂っているようにみえます。多剤併用の増加や患者さんの高齢化が背景にあるのかもしれません。

しかし、右ページに示した患者さんの回答をご覧ください。処方薬の名前と用法を「すべて覚えている」と「だいたい覚えてい

る」でほぼ9割に達し、医療スタッフの予想とだいぶ差があります。

この差は、ふだん医療スタッフが接している患者さんの平均像と、このアンケートに回答された患者層が異なることによるのかもしれません。ただ、処方薬の数(糖尿病用薬以外も含めた総数)について、患者さんが答えた実数は平均4.6剤、スタッフが答えた予想数は平均4.1剤、また患者さんの最多年齢層は60歳代(30%)であり、実臨床と極端な乖離はないようです。



どちらが実態に近いのでしょうか？ いずれにしても、「患者さんが覚えるのは無理」と断定せずに、覚えてもらおうとする働きかけは無駄ではなさそうです。

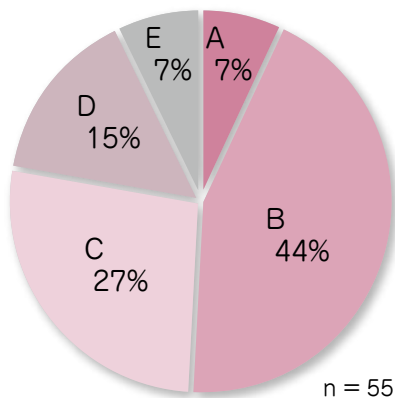
Q. 残薬への対応方法を患者さんに説明していますか？

昨今話題の多い残薬問題。「経口薬療法中のすべての患者さんに説明している」が35%、「処方薬の数が多い患者さんには説明している」が44%と、スタッフの8割が何らかのかたちで対処法を説明しているようです。

Q. 飲み忘れや自己判断での中止・服用量変更をせず、指示どおりに服用している患者さんは、何割ぐらいだと思いますか？

最も多かった回答は「4分3程度の患者さんが、指示どおり服用している」だろうとの予測です。この質問についても患者さんは

「ほぼすべて処方どおりに服用している」が83%と(右ページ参照)、上記の質問に続きやや乖離がみられました。



- ほぼすべての患者さんが、指示どおり服用していると思う
- 4分3程度の患者さんが、指示どおり服用していると思う
- 半数程度の患者さんが、指示どおり服用していると思う
- 4分1程度の患者さんが、指示どおり服用していると思う
- 指示どおり服用している患者さんは、ほとんどいないと思う

自由記述から

まず薬局に薬を取りにくることをほめる(薬剤師・40代) / aGIやグリニドを含む処方はずべて食直前へ統一する。なるべく配合薬へ変更して錠数を減らす(医師・60代) / ドクターの自己満足の処方が多いと感じる。複雑な飲み方で本当に血糖が改善するのか、シンプルにしたほうが改善するのか見極めてほしい(薬剤師・40代) / 院外になって患者の知識が減った。一包化のためか。またジェネリックの推進で一般名になりややこしくて患者が覚えられていない(医師・60代) / 薬局での説明が医師と異なることもあり患者さんが不信感を抱いていることもある(看護師・50代)